



.....  
 監督・脚本・製作＝ナンシー・メイヤーズ／出演＝ジャック・ニコルソン／ダイアン・キートン／キアヌ・リーブス／フランシス・マクドーマンド／アマンダ・ピート（ワーナー・ブラザーズ映画配給／2003年アメリカ映画／128分）  
 .....

63歳の結婚経験のないプレイボーイ男性と、離婚歴があり20歳代の娘をもつ、54歳の今は劇作家として1人生活している「強い」女性との間に大恋愛が……。 「恋愛に年はない！」ということ、コメディタッチをまじえながら、真剣にそして心温かく描いた素敵な映画。「恋愛適齢期」とは、最近まれにみる適切な邦題のつけ方。中年のプレイボーイや最近増えているはずの孤独（？）な中年シングル女性、必見の映画！

## 🎬 男は63歳のプレイボーイの実業家

ジャック・ニコルソン扮する63歳のハリーは、レコード会社を経営する実業家。社会的、経済的にも大成功した上、結婚歴がなく、30歳以下の女性限定（？）で女遍歴を重ねながら、人生を楽しみ、40年間「浮き名」を流してきた。日本で言うならば、さしずめ……か？

そんなハリーが、今付き合っている若い恋人はマリン（アマンダ・ピート）。念のために言っておけば、これは決して、今風の「援助交際」ではない。マリンも、年齢は離れていても、優しく楽しく、しかもカッコ良くてリッチなハリーが本当に大好きなのだ。もちろん結婚は考えていないが、そんな大好きな彼と2人だけの週末を一緒に過ごし、セックスを体験し、楽しむことはマリンにとっても自ら望んだことだ。

そのため2人だけのロマンティックな週末を過ごすべく、今日、2人はマリン

の母親の持つ別荘へ。「お楽しみ」を先に延ばして、まずはひと泳ぎ、とマリンは水着に着替え、ハリーはちょっと1杯と冷蔵庫を開けていた時、何と玄関には、叔母のゾーイ（フランシス・マクドーマンド）と連れ立ったマリンの母親のエリカが。

### 女は54歳の劇作家

エリカ（ダイアン・キートン）は今、54歳。舞台演出家の夫と20年間の結婚生活の後、離婚し、一人娘マリンがいる。劇作家として成功し、多くの実績も残している。そしてニューヨークのハンプトン・ビーチに別荘を持ち、そこでの1人の執筆活動が心の安らぎ。

離婚後は、ひたすら1人で生活しようと努力してきた甲斐あって、今では男に惑わされることなく、女1人で「強く、自由に」生きていくことができるようになったと「自負」している。しかし……本当は……？ そんなエリカが別荘で娘の恋人ハリーと出会ったことによって、大きな転機が。

### そこに絡む男は36歳の独身医師

「マトリックス」シリーズ3部作（99、03、03年）で世界的に有名になったキアヌ・リーブス扮するジュリアンは36歳の独身医師。エリカの別荘で急に心臓発作を起こしたハリーが病院に運びこまれたため、その担当医になった。テキパキと処置をし、「発展家」としてのハリーを見て、「バイアグラは飲みましたか？」と適切な質問をするのは、医師として当然のことながら、ユーモアたっぷりの魅力的なドクター。

しかし、ジュリアンにとってもこの患者との出会いがラッキーだったのは、ハリーの付き添いでやって来たエリカと出会えたこと。ジュリアンは、エリカの作品の大ファンだったのだ。その上、身近に憧れの女流劇作家と接したジュリアンは、年齢を超えたエリカの魅力にぞっこん。たちまちデートの申し込みを……。

### さすが大人！ の4人

エリカの別荘で、ハリー、マリン組とエリカ、ゾーイ組が「鉢合わせ」したの

は、ちょっとしたエリカの予定の変更による全くの偶然から。

しかし、この別荘で楽しい週末を過ごそうと計画して出かけてきた、この2組にとって、この「鉢合わせ」は、どうにも具合の悪いこと。

したがってまず、ハリーが「悪いから、僕が引き上げよう」と提案するが、エリカは儀礼上(?)「イヤイヤ、私たちが退散するわ……」となり、お互いに遠慮気味。そこでゾーイから出された「大人の提案」は、「2組で一緒に過ごしてもお互い困ることはないんじゃない……?」ということ。そりゃそうだ。お互い大人なんだから、相手のことを気にせず、遠慮なく自由に別荘での週末を楽しめばいいわけだ。「不都合など、ある訳がない……」、そう思った4人は、それで合意したが……?

### 対立するハリーとエリカ、ゾーイの価値観！

初めての人間同士がうまくやっていくためには、適度な距離感が大切。そしてそれは、少なくとも大人の3人は十分にわかっている。ところが、4人揃っての食事時の会話は最悪のものとなった。

適度な自己紹介と軽妙でウィットに富んだ会話、3人は、3人三様にそれを目指していたはずだが、63歳の、独身でプレイボーイ、そしていつも付き合うのは30歳以下の若い女性限定というハリーの生き方に、「イヤミ」を入れていったのがエリカなら、これに楯つき、中年女の立場から自説を大展開したのはゾーイ。これでは楽しいはずの夕食は、当然、台無しに……。

### 大事件勃発——ハリーの心臓発作

食事が終わり、エリカとゾーイが夕食の後片付けをしている時、2階では音楽が流れ、ガタガタと物音が聞こえ、マリンの嬌声も……。ハリーとマリンの「お楽しみ」が開始されようとした様子。母親のエリカは、娘のマリンが63歳のオッサンと真剣に付き合っていることについては、あまりいい気はしていない。しかし、そこは、自主性尊重、自己責任の原則というのが「アメリカ流」。娘に文句を言うこともなく、2階での「お楽しみ」も黙認だったが……。

しかし、突如マリンから「ママ、ママ早く来て」との声がかかった。そうなれ

ば話は別。これだけはっきり呼ばれたら、プライバシー侵害になることはない、と確認の上、部屋の中に入ると、2人で、ちょっとおふざけをしていたら、ハリリーが突然、胸が苦しいと言って、倒れてしまったとのこと。

いくらプレイボーイだからといっても、ハリリーは既に63歳。少しは年齢のことも考えなければ……。これからの「お楽しみ」の期待の大きさと、体力がアンバランスになったわけだ。

そして、病院でのジュリアン医師の問診に対して、ハリリーはバイアグラを飲んでいたことを告白せざるをえなかった。なぜなら、それによってハリリーの治療方法が大きく変わり、下手すると命取りになるのだから……。俺も注意しなければ……？

## 別荘での静養がもたらしたものは？

心臓発作の後、ジュリアンの指示により、ハリリーは体力回復のため、しばらくエリカの別荘で静養することに。しかしこれは、エリカにとっては明らかに迷惑なこと。なぜなら、自由に別荘で過ごしながら、劇作家としてパソコンに向かう時間は、エリカにとって貴重なものだから。もっともハリリーが別荘の中で、自由気ままに過ごしているのは、悪気があるわけではない。それが、彼のいつものライフスタイルなのだから。

しかし、「1つ屋根の下で」男女が一緒に生活すれば……？ 反発し合っていた中年(?)男女の間にも、いろいろと起こるもの。部屋を間違えたハリリーが、完全ヌードになったエリカを目撃したり、パソコンで大人の「チャット」を楽しんだり……。そして台所での「パジャマ・パーティー」での腹ごしらえ……。そんなところに飛び込んできたのがマリン。そして女の勘は鋭いもの！ 敏感なマリンは、2人の中年男女の間の、微妙に惹かれ合う空気を如実に感じ取った。

## 男女の仲その1 ハリーとマリン

まず第1はハリリーとマリンの仲。これは、マリンに年相応の新しい恋人ができたことと、タイミングよく、ハリリーが母親のエリカに惹かれていることがわかったため、「話し合い」によって、ハリリーの恋人は、娘のマリンから、母親のエリ

カへとうまく「鞍替え」になった。何とも理性的かつ合理的な話し合いで、うまくいくものだと感心するとともに、羨ましい限り……。

## 男女の仲その2 エリカとジュリアン

第2はエリカとジュリアンの仲だが、これは結構いい仲。エリカは、いわば、63歳のハリーと、36歳のジュリアンとの「二股状態」だが、ジュリアンはエリカ一筋。このままではひと波乱起こるのでは……？

## 男女の仲その3 ハリーとエリカ

第3のハリーとエリカの仲は、いまや絶好調！ ハリーのプレイボーイぶりはダテではない。一見、チャランポランそうだが、優しく、大人の誠実さを持ったハリー。その上、ハリーのキスはエリカの身も心も溶かした上、お互い十分に、納得した上でのベッドインも最高のものだった。ハリーは、心臓発作後3日目という厳しい肉体条件の中で、バイアグラの助けも借りないまま、十分にエリカを満足させたというわけだ。

そして翌朝、2人が同じベッドの上で目覚めたのは何と午前11時。2人とも、いつも4時間程度の睡眠しか取れなかったのに、セックスに満足した2人は、ホントに久しぶりに8時間たっぷりの睡眠を取ることが出来たのだった。

これからしばらくの間、この2人の「イチャイチャぶり」は凄いもの。そしてこうなると、プレイボーイの男は従来どおりのマイペースだが、「大変身」するのはオンナ。この日を境に、エリカが離婚後自らに課してきた、「女が1人孤独に力強く生きていく」という価値観は大きく変わり、ハリーとベタベタ状態に……？ しかし、そうなると男は……？

## 落ち込むエリカだが……

全く価値観の違う63歳の男と54歳の女が出会い、お互いに魅かれていったとしても、そうすなりと恋愛が成就し、結婚してハッピーになるというのは甘すぎるといえるもの。もちろん2人ともそれはわかっているが、こういう場合は、まず「火のついた」女の方が熱くなるもの。そして、「早く、右か左か方向を決めてく

れ！」と迫るのも女。

だから、ある日、エリカとマリナが離婚した夫と彼が再婚しようとしている女性との食事のためにレストランの席に座っていた時、偶然ハリーが若い女性と2人連れで別のテーブルに座ったため、エリカはプッチン……？ 前後のみさかいかもなく、店を飛び出してしまった。「これは、前からの約束だったんだ」というハリーの説明（弁明？）は、こんな状況下では何の説得力もなし。

一方的にハリーに魅かれ、のぼせていた自分がバカだったと嘆くエリカだが、そこはそれでも、したたかな中年女。その生命力は強く、ただ沈みこむことはない。ハリーとの思いがけない恋愛と失恋のおかげで、エリカには1つのミュージカル劇の構想がはっきりと見えた。そこでエリカは、ハリーとの恋を思い出して涙を流し、大声で嘆き悲しみながら、次から次へとわいてくる言葉をパソコンに打ち込み、遂にミュージカル劇が完成した。

## 二転三転、そして四転五転する恋愛模様

このミュージカル劇では、ハリーはとんだ笑いモノ。そして心臓発作の挙げ句、第二幕で死んでしまうという縁起の悪いもの。しかしそれでもハリーは、このミュージカル劇が気になり、またエリカのことが気になって忘れられない。他方、エリカのその後の恋人はジュリアン。この2人は実にうまくいっている様子。さすがに、ここまで事態が進展すれば、一発逆転ホームランは到底ムリ……？ しかし、恋愛模様は二転、三転、そして四転、五転……。

## 一発逆転ホームランはパリで……

エリカの誕生日は1月。そしてハリーの誕生日は2月。2人でベッドインした時、エリカは、それまで2人の交際が続いていたらパリで誕生日を祝おうと提案していた……。そして、今日はエリカの誕生日。エリカが座っているのはパリの、あるレストランの席だが、なぜか1人。そしてその店を訪ねて、入ってきたのはハリー。半年ぶりの再会(?)を懐かしみ、しみじみと自分の人生(女遍歴?)の「処理」を語るハリー。ところが、そこに現われたのはジュリアン。今日、このレストランの席は、エリカとジュリアンの2人のものだったのだ。そし

てハリーの目の前で、ジュリアンの手から出されるプレゼントは……？ もはやこれまでと思ったが……？ 意外な一発逆転ホームランが待っていたから驚き……。

## どちらにウェイトをおいてこの映画を観るか？

この映画でダイアン・キートンは、アカデミー主演女優賞等にノミネートされ、また、ゴールデン・グローブ賞 [コメディ/ミュージカル部門] 最優秀主演女優賞等を受賞した。このように一般的には、この映画では、中年女性エリカの生き方が注目を集め、世の中年女性の憧れの的となったようだ。

パンフレットでも「年を重ねるごとに、恋に臆病になっていく心。肌を隠すように、恋する心も隠してしまう。恋をためらわせるのは、年齢？ それとも……？」「50代バツイチ。恋の季節はもう終わり。……と思っていたはずなのに、それは突然やって来た！」という、中年女性対象の売り込みがメイン。また、この映画の原題『Something's Gotta Give』とは、「何かを与えよう」という意味で、エリカを対象としたタイトルだ。

たしかにこの映画におけるエリカ役のダイアン・キートンは魅力的。彼女は1946年生まれとのことだから、1949年生まれの私よりも年上。したがって、当然皺はたくさんあるし、手指だって美しくはない。しかし、一瞬みせたヌードは綺麗だし、ベッドの中の姿も美しいもの。また、デートのためにドレスアップした姿はけっこう綺麗で魅力的だから、36歳のジュリアンが「年の差なんて！」と本気で思いつめるのもうなずける。だからこの映画の主たるターゲットである多くの中年女性たちも、エリカに負けないで、「自分らしく生きている時が、恋愛適齢期」というメッセージを率直に受け止めて、自分の人生に生かすことが大切だ。

しかし、私は55歳の男として、63歳のハリーという男性に強い魅力を感じながらこの映画を楽しんだ。私がこの映画から自分なりに勝手に受け止めたメッセージは、「俺も63歳になった時、このハリーのように、自由に恋愛できる『恋愛適齢期』の状態になりたい」ということ。もっともこれは、本来書籍で公表するものではなく、自分1人の心の中に秘めておくべきことかもしれないが……？

2004(平成16)年4月14日記